



志政がかみの通信

市民派市議会議員 三丸文也・杉山元則

市議会で住民投票条例が否決



浅野市長

8,676人の市民の声を聞き入れず！

住民投票
「必要ない」

「市役所の耐震補強か建て替えかを選択する住民投票条例案」が12月定例市議会に提案され、議論がされました。しかし、採決の結果、賛成4、反対20で否決されてしまいました。

【浅野市長の主張】（一部抜粋）

本庁舎耐震化の整備方針の検討は、市民代表の策定委員会、市議会、市民の皆様の意見を十分に聞きながら、専門的・技術的な検証や必要な議論を重ねて、慎重に検討を行った結果、「建て替え」と決定しました。

今回の条例によると、住民投票をしない限り市民の意思は明らかにならないこととなり、議会制民主主義に則った本事業の取組みと矛盾しますので、必要ないと考えます。

「どうか私たちに政治参加させてください」という市民の声を否定

住民投票代表者の意見陳述（一部抜粋）

今の各務原市議会は政和クラブ、公明党、無党派の与党議員が議決権を握り、与党の1強が目立ちます。ですが、与党に反対する有権者はいっぱいいます。その与党の多数派権力でも、市民の一人ひとりの思いや希望を好きなように制限することはできません。

①多数決について考えます。

多数決はとても便利な手段ですが、市民の生命や財産に大きな影響を及ぼすような問題については、十分に議論を重ね、より慎重にならないといけません。

しかし各務原市議会では数の力で物事を決めているように映ります。民主主義で重要なのは、全員一致に向かおうとする努力と情報公開、そして熟慮ではないでしょうか。

②住民投票について考えます。

市民は選挙で市長や議員を選び、政治を委ねています。しかし、選挙の時には考え方に共感していたとしてもその時に考えられないような問題が発生した場合、その議員にすべてを一任して良いものだろうかという問題が起きます。そこで登場するのが住民投票です。

③最後に民意について考えます。

浅野市長は「障害者の方々と意見交換して貴重な意見を多く頂戴した」と言いました。大変貴重な意見であり少数であっても民意です。その少数の意見をすくい取るなら、今回署名をした8,676の民意をすくい取って欲しいです。住民としては選挙を除けば唯一の政治参加である住民投票です。

どうか、私たちに政治参加をさせてください。

浅野市長、市議会には説明責任があります
住民投票条例を否定した市長や議員に説明を求めましょう

住民投票に反対の立場の議員

会派名	議員名				
政和クラブ	大竹大輔	岩田紀正	津田忠孝	瀬川利生	仙石浅善
	水野盛俊	川嶋一生	池戸一成	岡部秀夫	足立孝夫
	梅田利昭	神谷卓男	藤井國雄	古田澄信（議長）	
市議会公明党	黒田昌弘	五十川玲子	横山富士雄		
無党派	坂澤博光	吉岡 健	三和由紀		

“しがらみのない市政”を目指します

今回の住民投票条例は各務原市有権者約12万人の7%を超える有効数8,676の署名が1か月の短期間に集められて市長に請求されました。住民投票条例が議会で可決されていれば、市議会議員選挙と同日（平成29年2月）に市役所建て替えの是非を問う住民投票が実施される予定でした。住民投票できることを多くの市民が望んでいました。

しかし、そういう市民の願いを浅野市長と多数の市議会議員が“必要ない”とはねつけました。市民の声に耳を傾けない浅野市長と、市長の提案を全て受け入れてしまう与党多数派の市議会議員が、自分達に都合が良いように市政を決めているのです。

市民の声を紹介します

49歳男性（鵜沼在住） ※このご意見は新聞に投書されましたが未掲載でしたのでご本人の了解を得て掲載しました。「市議会がひどいことになっている」。古里に帰ってきて3年。そんな話を知人から聞いて、地元議会をインターネットの生中継で「傍聴」した。

「議会の華」とも言われる一般質問。多数派の与党系議員の質問には、流ちょうに答える市長だが、野党系議員の質問には一切、答えない。答弁に立つのは市職員だけだ。

野党系議員の市政批判に対し、「議会運営委員会にかけろべき」と、与党系議員から緊急動議が出て、議事が止まってしまった。市職員の傲慢な態度も目に付く。野党系議員が提案したことに、「議員に言われるまでもなく」と言っただけだったり、質問の趣旨について、食ってかかるように逆質問を繰り返したり。当初予算の1.6倍となった航空宇宙科学博物館改修事業費についても、予算案を初めて提出したことを理由に、「増額はしていない」と強弁したり。地方議会の劣化が言われるが、他人事ではない。足元の議会を注視していかなければ、と思う。

議会改革を推進する仲間を紹介します（只今、仲間を募集中です）

市議会を傍聴した市民の多くが「各務原市議会は異常だ。今まで関心が無かったので知らなかったが、こんなにおかしなことになっているとは思わなかった。」と感想をもらえます。私たちは、議会改革を推進する仲間を募集して一緒に市議会を改革していこうと考えています。そんな仲間の声を紹介させていただきます。

52歳男性（稲羽在住）

多様な意見が認められず、それに対する討論もできない。

議会は多数派の結論ありきの議論に終始し行政に同調する。

各務原市議会にかかわる人々は自分の立場や利益が優先され、議会や委員会を傍聴するごとに、「市民にとって最も良い決断は何か」に向かって思考しているようには見えません。

「立場主義」や「自分さえよければ」がまかり通り、他者への愛、モラルや道徳観は感じられません。

早急に議会改革を行わなければ市民が不利益を被るだけ。

市議会を変えることで、今の世代や次の世代が豊かになれることを願って活動していきます。

チェンジ
Change!

各務原市政に
新しい風を

49歳主婦（鵜沼在住）

保護者にも現場の支援員にも相談なく、突然決まった学童保育の民間委託。

それに対して保護者から、民間委託見直しの請願書が提出されました。

しかし行政は「十分な説明を行った。」と繰り返すばかり・・・

そもそも十分かどうかを決めるのは市民ではないでしょうか？

なぜ請願書が提出されたのか？そこに思いを馳せて欲しい。

多数派議員はその事実を確認もせず、当の行政に確認をし、「説明は十分に行った。」の言葉を鵜呑みして市議会は不採択。社会は女性で変わると信じ、みんなが考えるきっかけとなる場をつくっています。みんな決めみんなでみらいをつくる。

そんな思いで活動しています。